

社団法人 丹波青年会議所
第40代理事長 大地 憲一

【所 信】

はじめに

本年、(社) 丹波青年会議所は40周年を迎えることができました。1972年、氷上青年会議所が創立され、今の(社) 丹波青年会議所まで多くの先輩諸兄によって、歴史が積み重ねてこられました。激変する様々な時代の中を、お一人お一人がまちに対する使命感をもって、常に暗中模索され、まちを動かされてきたことに敬意と感謝の念に絶えません。

その歴史が今の私たちに引き継がれようとしています。そして今、激変する時代の中で、また価値観が大きく変わろうとしています。経済や文化の進歩とともに1つの価値観が過渡期を迎え、転換期に入ろうとしています。このような時代には、多様な価値観が表れ、どの選択が正しいのかを誰もが模索し、新たな価値観が創り出されます。これは、次の時代がより太い幹を支える働きとなっているのではないでしょうか。諸先輩方がそうしてこられたように、そのことを忘れずに、私たちも模索しましょう。我々青年だからこそ出せるアイデアを出しましょう。より太い幹の「明るい豊かな社会」の実現には、自分自身への問いかけと外へと影響を与える行動が必要です。先輩諸兄が築かれた歴史と限りない情熱を胸に、(社) 丹波青年会議所の新たなる一歩を踏み出しましょう。

まちづくり（多様化社会の中を生きる）

近年、多様化社会と称され、色々な情報が氾濫し、とらえどころのない価値観が広まっているように言われることがあります。一見、どこにも重点のわけない、経営的にみると非常に難しい社会のようにも思えます。

しかし、本当にそうでしょうか？混沌とした社会だからこそ、人々は豊かさの本質を追い求めるようになっています。こういう社会では、豊かさの本質が息づいている丹波市のようなまちが、これから発展する可能性を秘めていると考えます。都心部にはない豊かさ、里山の風景、温かみのある会話、豊かな食材、人情のある人々、自然とのふれあいがある暮らしのスタイルなどは今や大変な財産に思えてなりません。そんな中でも、私は豊かな人間性を中心とした田舎力が今、大切だと考えています。

ただ、この丹波の豊かさ（田舎力）は私たち市民の心の中で、しっかりと形づくられないと、その魅力が表にでることもなく、ともすれば置きざりにされてしまいます。形づくるということは、デザインすることです。まちをデザインすることは、形あるものだけでなく、心の中に形づくられるものを良いカタチにまとめる上で重要になります。人もまち

も企業も国も、アイデンティティ（個性）を強くもって、存在意義をアピールしないといけない時代です。社会の流れを切り取る新たな視点から丹波市の個性を再発見し、この社会でその丹波市の個性を強みとして基礎に据え、デザインされた形あるものとして発信しなければならないと思います。丹波市民を始め、誰もが丹波市のアイデンティティを共有できるようになるためには、豊かな人間性を中心とした田舎力を私たちの感性で切り取り、インパクトのある形でアピールすることが大切と思います。丹波市の豊かさの本質を原点にして、そこから生まれることを丹波市内外に受け取りやすいようにデザインすることが、みんなの心に丹波の灯をともすことができる方法だと思います。

JC の本質を追究する力が今の社会において必要とされています。私たちの住む丹波市を見つめましょう。いつまでも続く豊かな丹波を心から愛し、自分たちの手で育んでいきましょう。これから時代は、当たり前だった田舎人の生活が意外な価値を生むことに、私たち自身が驚くことでしょう。

人づくり

私たち JC は、確かな見識に基づいた運動をしなければなりません。自分の感じたもの、自分の信じたものを大切にして、なおかつ勉強する姿勢を持ちましょう。私たち青年が何をするべきか、何をしなければならないのか、何を学ばなければならないかを常に考えましょう。そして、本物だと思うことにいきついたら、とことん議論をしましょう。それはきっと何ものにも換え難い仲間との自己開発になるはずです。謙虚にあらゆる人から学ぶ姿勢を持てば、JC ほど自分を磨ける場所はありません。謙虚に学ぶことができれば、一日の学びの時間はどんどん増えていきます。その積み重ねは、年齢や経験を超えて大きな力になると信じます。また、JC での人づくりは、JC のためにあるのではなく、自分の人生に大いに役立つものであることを認識しましょう。

「こどもには無限の可能性がある」

この言葉はよく耳にする言葉ですが、私も強くそう思います。ただ、私たち大人が限られた範囲でしか考えられなければ、こどもはその範囲でしか可能性を発揮できなくなってしまいます。人を思いやる想像力を持ちましょう。新しい時代を切り開く想像力を持ちましょう。それらは、すべて未来のこどもたちへの贈り物になると信じます。

自然環境を考えるとき、あらゆる場面で経済問題が浮かびあがります。国の未来を考えるとき、海外の問題も切ってもきれない問題として上がってきます。そんな時、必要なのはもう一つの選択肢を想像することではないでしょうか？私たちがあらゆる場面で二択を

迫られるとき、もうひとつの選択肢を常に用意することを忘れずにいれば、新たな想像力が光を放ち、こどもたちの可能性をまさに無限にしてくれるものになるでしょう。

想像力が必要とされているのは私たちです。こどもたちは、私たちの想像力のそのうえを軽く飛び越えていってくれるでしょう。

会員拡大について

青年会議所運動において、会員数は必ずしもその運動の真価を問うものではありません。ただ、「人数が減れば減ったなりの運動をすれば良い」でいいのでしょうか？私には人数が減れば活動の幅が狭まることが目の前に浮かんでなりません。多くの人に私たちの考えを伝える力は、色々な人から伝えてこそ、より深いものになっていくのではないかでしょうか。

「明るい豊かな社会を築く」という一点のテーマに向かうためには、より多くの考え方、より多くの個性が必要だと考えます。この40周年を期に青年会議所の形を考えるとともに、会員の拡大の必要性も同時に考えましょう。より多くの仲間が集まることは、青年会議所運動において、あらゆる場面で私たち自身にも自己を見つめる力になり、力の源になることと信じます。

最後に

社会情勢の変化とともに「公益性」という名で、私たちの活動が問われることがあります。私たちは、「明るい豊かな社会を築く」団体です。豊かさの本質とは一体なんなのか？丹波青年会議所のアイデンティティ（個性）とは何なのか？それらを考えることでおのずと答えは見えてくると思います。私たちが私たちの活動を問われたとき、いつも原点に帰れば答えは出ます。社会は変わっても、変わらない想いがあります。変わらない願いがあります。それを追及することが、私たちの進むべき道への近道と考えます。

私たちにとって、JCは全てではありません。ただ、JCから得た今までの学びとこれから自分たちが得られる可能性を想像してみましょう。豊かさの本質をJC活動で求めるとき、自分の人生もおのずと本当の豊かさへと向かっていくのではないかでしょうか？こんな機会を与えてくださった先輩方には改めて感謝いたします。そして、大切な仲間と一緒に新たな一歩を踏み出しましょう。友情は組織や役職や立場を超えるものだと思っています。本当の友情を考えるとき、友人の本当に困った気持ちを見逃さないでください。お互いに励まし、JC活動を展開するとき、夢は必ず実現します。

【基本理念】

- 一、丹波のおもしろいを自分のおもしろいに、
自分のおもしろいを丹波のおもしろいにします。
- 一、ものごとの本質をとらえた新しいアイデアを想像します
- 一、何事にも謙虚に「学ぶ」姿勢で行動します

【スローガン】

田舎人の田舎デザイン力 ~丹波市のええところをカタチに~

【基本方針】

1. 40周年事業の成功
2. 豊かなまち「丹波市」のデザインの提言
3. 丹波市の田舎力の発信
4. 会員拡大の絶対推進
5. 丹波青年会議所のアイデンティティの確立
6. 会員の自己開発の推進